



平成26年

12月の園だより



第二みみょう保育園

生活発表会（幼児組参加）

- 日時 12月 6日(土)
9:00~14:30
- 場所 第二みみょう保育園5階ホール
- 内容 ◆第一部 9:00~
3歳児（さくら・ぼたん・れんげ
・ちゅうりつ組）
- ◆第二部 10:30~
4歳児（きく・ひまわり・ゆり組）
- ◆第三部 13:00~
5歳児（ばら・ふじ・あやめ組）



子どもたちが毎日、劇や、合奏、表現などを楽しく取り組んできました。
当日は、様々な姿が見られることと思います。



12月25日(木)

昔は、どこの家でも年末に餅をつく杵の音がひびきわたっていました。今では、臼、杵、釜、蒸籠といった道具も家庭で少なくなっており、機械でついたり、店で買ってきたりしているようです。

もちは「望」に通じ、物事が満ち足りたことをあらわします。正月に餅を供えて家族みんなが満足に、希望がかなえられるようにと願うのが習わしでした。

当園では、25日に2歳児以上が、5歳児のおじいちゃん、おばあちゃんにいろいろ教えていただきながら、一緒にお餅を丸めたり、つくところを見たりして、楽しく過ごします。



消さないで
あなたの心の
注意の火

広島市南消防署
警防課救助係

「心情」「意欲」「態度」

早いもので12月に入ります。そろそろ園における3大行事である生活発表会の準備が始まります。運動会を初め作品展などの行事は、子どもたちが自分で考えたことを自分なりに表現する中で、やればできることや、仲間と力を合わせる楽しさを味わう、とても大切な場になります。

当園の教育目標は「持って生まれた個性をのばす」ですが、それを具体化するために、「楽しい保育」をテーマにさまざまな行事を展開してきました。

行事は、子どもたちが経験したことをもとに、新しいことに挑戦する機会になりますし、4~5歳になると、一人ではなく仲間と共同で行動するので、経験する内容や幅が一段と広がることとなります。

仲間と一緒に相談したり考えながら同じ目標に向けて行動することを「協同する学び」と言いますが、これが小学校に入ってから学習意欲の基礎となります。

しかし、ここで一つ考えなければならぬことがあります。

「楽しい保育」や「さまざまな体験や活動」があっても、それに興味や関心を持つ「心情」や自分からそれに関わろうとする「意欲」、考えたり工夫しながら楽しむ「態度」が身についていないと、楽しい保育も楽しくないし消化不良になります。

心情、意欲、態度を育むためには、いつも申し上げて恐縮ですが、「小さいときにかわいがられて、大切にしてもらおうこと」や「自分の思っていることを主張し、大人から受け止めてもらい、認めてもらうこと」が必要になります。自分の思いを上手に相手に伝えるには、相当な年月と修行が要りますが、小さいときはよく失敗します。ご家庭でも、自分の思いを通そうとして意地を張ったり、親の言うことに逆らったりすることもあるかと思いますが、「反抗期は成長期」ですので、いきなり叱るのではなく、何をしてほしいのかを尋ね、問題がなければ「わかったよ」と応えてあげてください。ただし、わがままを言っているときは「駄目です」とはっきり言い聞かせないと、限りなくわがままになり、自分のことだけを考える子になりますので、「良い自己主張」なのか、「悪い自己主張」なのかを見分ける必要があります。

もう一つ大切なことは、挨拶などの「しつけ」や規則正しい生活が身についていないと、「行事」も「楽しい保育」も本人にとっては「退屈」で「迷惑」な時間となって、心情、意欲、態度どころではありません。

あと4か月で進学・進級の時期になります。「規則正しい生活」と「楽しい保育」の中で、充実した園生活になるようにしましょう。

成道会 12月11日(木)

インドのシッダルタ王子（後のお釈迦様）が長い修行の末、お悟りを開かれた日が12月8日です。行事の都合で11日(木)に成道会の式を行い、「良い子になりますように」とみ仏様に手を合わせます。健やかに、そして、『感謝と思いやり』の心を持ち、『何事にもやる気のある子ども』に育ってくれることを念じています。

大晦日
12月31日



「みそか」とは30日のことで、一年の最後の日を「おおみそか」と言います。大晦日の夜、除夜の鐘が108回鳴ります。これは、人間の煩惱が108つあるという仏教の教えからきたもので、それを取り去って新年を迎えるわけです。107回を年内に、最後の一つを新年につきます。

子育て応援メッセージ

まずは、
お母さんの育児の悩みに
耳を傾けることから

今からでもできる お父さんの子育て



“母親の話に耳を傾ける” “労をねぎらう”
“病院や手軽な公園など子育てに役立つ情報を集める” など、できることから始めてみませんか？

「この子はこの子でいいんだ
私は私でいいんだ」 明橋大二著 より